

シメオンさんとアンナさん

ルカ 2 : 22 - 38



司祭 ヨハネ 井田 泉

2013年1月25日

2月2日

奈良基督教会・親愛幼稚園にて

シメオンさん

エルサレムにシメオンさんというおじいさんがいました。とても年をとっていました。悲しいこと、つらいことがたくさんありました。けれどもシメオンさんは、神さまを信じて、毎日聖書を読み、お祈りしながら暮らしていました。

あるとき神さまの声が聞こえました。

「シメオンさん、あなたはわたしが遣わす救い主に会えるでしょう。」

シメオンさんはそれを毎日、楽しみにしながら待っていました。神さまのところから来られる救い主はどんな方だろう。いつ、どこでお会いできるのだろう。神さま、早く救い主に会わせてください、とお祈りしながら待っていました。

ある日のこと、シメオンさんは朝から「今日はお祈りしたい」という気持ちがとでもして、エルサレムの神殿（大きな礼拝堂）に出かけて行きました。シメオンさんが神殿にやってきたとき、そこに赤ちゃんを抱いた若い女の人と、若い男の人がそこに入って来ました。

その赤ちゃんを見たとき、シメオンさんはなぜか胸がドキドキしてきました。喜びでいっぱいになりました。あまりにうれしくて目から涙が出てきました。

シメオンさんは、赤ちゃんのお母さんに「その子を抱かせてください」と言って、赤ちゃんを抱きました。

待っていてよかった。生きていてよかった。神さまを信じてきてよかった。シメオンさんは、今まででいちばんしあわせでした。

神さま、わたしはもういつでも神さまのところに行くことができます。あなたが約束してくださった救い主に、お会いできたのですから。

するとシメオンさんの口から歌が生れてきました。

♪主よ、今こそあなたはみ言葉のとおり
僕を安らかに去らせてくださる
わたしはこの目で 主の救いを見た。
これは主が 万民のために備えられた救い
すべての人を照らす光 み民イスラエルの栄光

その赤ちゃんとはだれでしょう。イエスさまです。お母さんはマリアさん、お父さんはヨセフさんです。イエスさまは世界中を幸せにするためにおいでになったのです。

(祈り) 神さま、わたしたちに救い主イエスさまを送ってくださってありがとうございます。わたしたちもイエスさまに出会って、一緒に喜ぶことができますように。アーメン

アンナさん

同じエルサレムに、**アンナさん**というおばあさんがいました。

アンナさんは若いときに結婚したのですが、やがて旦那さんが亡くなってしまい、それからはずっとひとりで暮らしていました。

悲しいこと、つらいことがいっぱいありました。でもアンナさんは神さまを信じて、毎日、聖書を読んで、毎日心からお祈りしながら暮らしていました。また困っている人のために力になってあげました。

そうしているうちに、不思議なことにアンナさんには、神さまの声が聞こえるようになりました。聖書から神さまのやさしい声が、

時にはきびしい声が聞こえてきます。アンナさんは、その神さまの言葉を他の人に教えてあげました。すると皆は元気になりました。

みんなはアンナさんのことを、「預言者」と呼ぶようになりました。預言者というのは、神さまの言葉を知らせてくれる人です。イザヤさんという人も預言者でした。救い主イエスさまの誕生のことを、ずっと前に教えてくれた人ですね。

そのアンナさんはだんだん年が行って、84歳のおばあさんになりました。アンナさんは毎日毎日神殿（大きな礼拝堂）に行って、お祈りしていました。

アンナさんは今日も神殿にお祈りにやってきました。するとそこに、おじいさんが赤ちゃんを抱いています。おじいさんはその赤ちゃんを、大切にそのお母さんに返しました。その赤ちゃんはだれかな（イエスさま）。おじいさんはだれかな（シメオンさん）。お母さんはマリアさん。

赤ちゃんがあまりにかわかったので、アンナさんはその赤ちゃんを抱かせてもらいました。するとアンナさんはとっても幸せな気持ちになりました。赤ちゃんを見ていると、不思議なことに、優しい神さまの顔が見えてくるみたいなのです。

アンナさんはわかりました。この赤ちゃんが、神さまがみんなを救うために送ってくださった救い主だ、と。

アンナさんは、この不思議な赤ちゃんのことを、エルサレムの町中の人々に知らせてあげました。

（祈り）神さま、わたしたちもイエスさま見て、一緒に喜べるようにしてください。アーメン